

八島太郎（本名：岩松淳）年譜

- 1908年(M41) 0歳 9月21日鹿児島県小根占村(現南大隅町)に誕生
- 1914年(T 3) 6歳 神山小学校入学 後に「からすたる」磯部先生のモデルとなる教師 磯長武雄 上田三芳両氏に影響を受ける
- 1921年(T10)13歳 鹿児島二中(現甲南高校)入学 「鹿児島新聞」(現南日本新聞)に風刺漫画「當世ユモア」を連載
- 1927年(S 2)19歳 東京美術学校(現東京芸大)入学
- 1929年(S 4)21歳 「日本プロレタリア美術家同盟」加入 軍事教練ボイコットで退学処分を受ける
- 1930年(S 5)22歳 プロレタリア画家 新井光子(本名：笹子智江)と結婚
- 1933年(S 8)25歳 小林多喜二のデスマスクを写生 戦争批判で拘留 長男マコ(信)誕生
- 1935年(S10)27歳 新宿紀伊国屋で「岩松淳個人展覧」開催
- 1939年(S14)31歳 息子マコを残し夫妻で渡米 ニューヨーク美術学校入学
- 1941年(S16)33歳 真珠湾攻撃日米開戦 米戦時情報部勤務
- 1943年(S18)35歳 筆名「八島太郎」で自伝絵物語 The New Sun「新らしき太陽」を出版
- 1944年(S19)36歳 日本兵士への投降ピラ「死ぬな」「父よ、生きよ」「必ず生きて機会を待て」制作
- 1945年(S20)37歳 第2次世界大戦終結 戦略爆撃調査団の一員として帰国 マコと再会
- 1947年(S22)39歳 自伝絵物語 Horizon is Calling「水平線はまねく」出版
- 1948年(S23)40歳 長女モモ(桃)誕生 マコ渡米 一家4人の生活
- 1949年(S24)41歳 日本語版「新らしき太陽」(中央社)出版
- 1953年(S28)45歳 ロサンゼルス移住 八島美術研究所設立 絵本 The Village Tree「村の樹」出版
- 1954年(S29)46歳 絵本 Plenty to Watch「道草いっぱい」出版
- 1955年(S30)47歳 絵本 Crow Boy「からすたろう」出版 56年度カルデコット賞次席
- 1958年(S33)50歳 絵本 Umbrella「あまがさ」出版 59年度カルデコット賞次席
- 1961年(S36)53歳 絵本 Momo's Kitten「モモの子猫」出版
- 1962年(S37)54歳 絵本 Youngest One「ちび君」出版 23年来の帰郷 小学生の同級生を訪ね記録映画「金色の村」 Golden Village 制作 鹿児島市立美術館「八島太郎玉手箱展」開催
- 1963年(S38)55歳 日本語版「あまがさ」(福音館書店)出版
- 1966年(S41)58歳 鹿児島県文化センター落成記念に小川勇吉氏の恐竜化石の寄贈に橋渡し組立の指導にあたる
- 1967年(S42)59歳 鹿児島県文化センター(現県立博物館別館)恐竜化石壁画「生命不滅」を描く 絵本 Sea Shore Story「海浜物語」出版 68年度カルデコット賞次席
- 1972年(S47)64歳 第23回フランスデヴィユ国際美術展グランプリ受賞
- 1974年(S49)66歳 ロサンゼルスで「八島太郎回顧展」開催
- 1977年(S52)69歳 絵本 One-inch Fellow「一寸法師」制作中脳溢血で倒れる
- 1978年(S53)70歳 日本語版「あたらしい太陽」(晶文社)再出版
- 1979年(S54)71歳 日本語版「水平線はまねく」(晶文社)出版 日本語版「からすたろう」(偕成社)出版 絵本にっぽん賞特別賞受賞
- 1981年(S56)73歳 日本語版「モモの子ねこ」(岩崎書店)出版
- 1983年(S58)75歳 日本語版「海浜物語」(白泉社)「村の樹」(創風社)出版
- 1994年(H 6)85歳 絵本 One-inch Fellow「一寸法師」(ほぼ完成) カリフォルニア州ガーデナの自宅で6月30日逝去
- 1995年(H 7) 鹿児島県文化センターで「八島太郎遺作遺品展」開催 根占町図書館で「八島太郎遺作遺品根占展」開催
- 1997年(H 9) 加治木町加音ホールで「八島太郎世界の民芸玉手箱展」開催
- 1998年(H10) 日本語版「村の樹」(創風社)新版出版 日本語版「道草いっぱい」(創風社)出版
- 2006年(H18) マコ岩松逝去
- 2007年(H19) モモ・ヤシマ来鹿
- 2008年(H20) 日置市東市来で「八島太郎コレクション世界の民芸品展」開催 鹿児島県青年会館で「金色のふるさと 椋鳩十と八島太郎ふたりのふるさと」開催 南大隅町で「八島太郎生誕100年記念事業(民芸品展・講演会)」開催